氏　　名	小岡　亜希子
学位の種類	博士（看護学）
学位記番号	第２号
学位授与年月日	令和５年３月１７日
審査委員	主査　教授　　橋本　龍樹
	副査　教授　　津本　優子
	副査　教授　　原　　祥子

論文審査の結果の要旨

重度要介護高齢者に対する「快適な排便ケア」を実践するために、影響を与えている要因を明らかにして、介護医療院の排便ケアを向上させるための示唆を得るための研究である。介護医療院は、これまで介護療養病床が担ってきた特別養護老人ホームや老人保健施設より医療必要度や要介護度が高い重度要介護高齢者の受け入れ先として、2018年度から始まった介護施設で、病院よりも長期の療養生活にふさわしいプライバシーが守られた住まいとしての居場所であると同時に日常生活に必要な医療処置や看取りが行える体制が整った施設である。今回の調査に参加した施設には、快適な排便ケアの実践について認識があり、特に苦痛と羞恥心に配慮したケアの認識が最も高く、排便機能に関するケアが最も低かったが、入所者が既に重度要介護高齢者であるため、自立した排便機能を回復させることが困難になっていたためと考えられた。快適な排便ケアとして、下剤の副作用に伴う排便の不快を考慮するケア、日常生活上のもてる力を活かすケア、便の生成と移送を援助するケア、腸内環境を整えるケアを抽出している。それに対する課題として、排便ケアの知識を深め、排便ケアのリーダーを育成し、排便ケアの課題を解決できるコントロール感、生活視点を取り入れた看護態度を養うことを挙げている。本研究は、介護医療院における重度要介護高齢者の「快適な排便ケア」の実践を明らかにし、それらの課題を明らかにしており、介護医療院の排便ケアの向上に繋がると思われる。

一方、介護医療院は都道府県によって偏在があり、本研究の成果が他の介護施設に入所されている排便ケアを必要としている高齢者のケアに、必ずしも直結するわけではないところもある。また、快適な排便ケアの内容を丁寧に吟味した結果として今回削除された実践内容について、今後対象者の拡大による調査などの際には、再考を期待したい。

しかし、「快適な排便ケア」の実践の重要性を明らかにした、画期的な研究であり、本論文は本学大学院医学系研究科博士後期課程の論文に値するものと判断する。